



令和元年度 第3回企画広報委員会の開催

第3回企画広報委員会を令和元年11月6日(水)、協会会議室で開催した。

1. 議 題

- (1) 「えひめの資源循環」第3号(11月号) 企画編集について
 - ・ 裏表紙写真 ⑧の写真に決定(左端一部屋根が写っている部分消す)
 - ・ 1週間以内に修正等を連絡する。
- (2) ホームページについて
 - ・ 7月から9月のアクセス解析の報告。
 - ・ 次回から前年度の同月分と比較できるようにする。
- (3) 40周年史の発行について
 - ・ 「(株)明朗社」「岡田印刷(株)」が見積もり額にほとんど差がなかったので企画書を作成してきた「岡田印刷(株)」に依頼することとした。
 - ・ 部数は700冊、発行時期等は理事会で意見を聞いた上で決めるが、一応許可日の令和2年8月5日に完成させるように進めていく。
 - ・ 業者との打ち合わせは事務局が行う。
 - ・ スケジュールと表紙デザイン案ができたら委員会にかける。
- (4) その他
 - ① 新年名刺挨拶広告について
 - ・ 例年同様に理事・監事と青年部会に依頼する。
 - ② 「えひめの資源循環」第4号(新年号)の表紙について
 - ・ 表表紙…新年号は天満神社の大クスに決定。次回写真選定する。5月号は土田之木のエノキ③に決定。
 - ・ 裏表紙…横峰寺(撮影者 片岡委員) 次回写真選定する。
 - ③ 次回委員会の開催日について
 - ・ 第4号(新年号) 令和2年1月8日(水)16:00~(予定)
 - ・ 編集後記・・・全員

上記の内容について協議し、「えひめの資源循環」第3号(11月号)を11月末に発行した。



令和元年度 第3回総務委員会の開催

第3回総務委員会を令和元年12月3日(火)、協会会議室で開催した。議題及び協議結果は以下のとおりとなった。

1. 議 題

(1) 総会日程等について

事務局より資料に基づき、開催期日、開催場所、来賓、議題、講演会のテーマ及び40周年について説明があった。

開催期日については、事前に来賓者への日程確認をしてはどうかと意見があり、今回は愛媛県等連絡して調整していくこととし現段階では、令和2年5月29日とすることで理事会に諮ることとなった。

講演会のテーマとして、(公財)産業廃棄物処理事業振興財団の加藤氏に依頼してはとの意見があり、講演の依頼をすることで理事会に諮ることとなった。

40周年記念行事は、記念誌のみとするが、3月の理事会で最終決定することで理事会に諮ることとなった。

その他の案については、案のとおり理事会に諮ることとなった。

(2) 焼却炉解体費用の積立制度の創設について

提案者より提案要旨の説明があり、事務局より資料に基づき制度内容及び問題点2点(①税制優遇利用率が低く新たな優遇税制は困難な状況にある②行政代執行に係る案件に該当するか)について説

明があった。制度創設は困難であるが働きかけないと何も始まらないため、次回四国地域協議会に提案し全産連及び政治連盟を通じて国や国会議員に働きかけることで理事会に諮ることとなった。

(3) 県通知等について

事務局より資料に基づき、県通知等について説明があり、案のとおり理事会に諮ることとなった。

(4) 新規会員加入及び退会の承認について

事務局より、加入1社、退会1社、業態の追加・変更1社について説明があり、理事会に諮ることとなった。

(5) その他

事務局より資料に基づき、今後のスケジュールその他について説明があり、理事会に諮ることとなった。



令和元年度 第5回理事会の開催

第5回理事会を令和元年12月3日(火)、協会会議室で開催した。議題及び協議結果は以下のとおりとなった。

1. 議 題

(1) 総会日程等について

事務局より資料に基づき、総務委員会の議論を踏まえて、開催期日、開催場所、来賓、議題、講演会のテーマ及び40周年について説明があった。

開催期日については、愛媛県等連絡し来賓者への確認をしていくが、現段階では、令和2年5月29日とすることで承認された。

講演会のテーマでは、(公財)産業廃棄物処理振興財団の加藤氏に依頼することで承認された。

40周年記念行事は、記念誌のみとするが、3月の理事会で最終決定することで承認された。

その他の案については、案のとおり承認された。

(2) 焼却炉解体費用の積立制度の創設について

事務局より資料に基づき、焼却炉解体費用の積立制度について説明があった後、提案者から「残置される廃焼却炉が増加している等」の提案理由説明があり、他の理事からも大変良い制度との意見があった。

協会としては2月の四国地域協議会に提案し全産連及び政治連盟に働きかけていくことで、案のとおり承認された。

(3) 県通知等について

事務局より資料に基づき、県通知等について説明があり承認された。

(4) 新規加入及び退会の承認について

事務局より資料に基づき、入会(正会員1社)、退会(正会員1社)について説明があり承認された。

2. 報告事項

(1) 委員会報告等

①中四国地域協議会交流会(R1.10.29)

②第3回企画広報委員会報告(R1.11.6)

③四国88箇所遍路道清掃(新居浜市)

(R1.12.6)

事務局より一括して資料に基づき概要報告があった。

(2) 全産連委員会等報告

①第1回災害廃棄物委員会(R1.9.3)

②第1回最終処分会(R1.9.4)

③第1回処分場早期安定化分科会

(R1.9.18)

④第1回建設汚泥分科会(R1.10.9)

事務局より、11月18日に開催された第3回災害廃棄物委員会における協会の説明提案内容も含めて、資料に基づき全産連委員会等の概要報告があった。

(3) 今後の行事スケジュールその他

事務局より一括して資料に基づき、今後の行事予定の報告があった。



令和元年度 松山市受託産業廃棄物処理実務者研修会の開催 (産業廃棄物処理業者研修事業)

松山市受託の産業廃棄物処理業者育成事業である産業廃棄物処理実務者研修会を、専門の講師を招き産業廃棄物処理業者を対象に下記の日程で開催した。

○ 産業廃棄物処理実務者研修会

開催日 令和元年11月8日(金)

受講者数 30名

研修内容

① 開講挨拶

② 講義

「産業廃棄物処理の基礎」

(講師 全産連 専任講師 岩田 隆氏)

③ 「松山市からの情報提供」

講師 松山市環境部 廃棄物対策課

佐伯 弘幸 主任

西田 奈央 主事

上甲 正人 主事

- ・ PCB廃棄物の適正処理について
- ・ 産業廃棄物積替保管場所及び処分場における火災の予防について
- ・ 適正な産業廃棄物の処理について





2019年度 産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会等の開催

廃棄物処理法に規定された産業廃棄物処理業の許可申請等に必要な専門的知識・技能の修得のため、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センターが毎年実施している講習会が松山市のリジェール松山で開催された。

○ 産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（新規）処分課程

開催日 令和元年11月12日(火)～15日(金)

受講者数 50名（同時受講30名）



○ 特別管理産業廃棄物の許可申請に関する講習会（新規）収集・運搬課程

開催日 令和元年12月10日(火)～12日(木)

受講者数 29名





平成31年度 優良産業廃棄物処理業者育成研修の開催

愛媛県からの受託事業である優良産業廃棄物処理業者育成研修会を、専門の講師を招き産業廃棄物処理業者を対象に下記の日程で開催した。

○ 処分業維持管理研修

開催日 令和元年11月27日(水)

受講者数 22名

研修内容

- ① 開講挨拶
- ② 講義「連合会最終処分場部会の取り組み」
—埋立処分委託契約書の作成及び
維持管理マニュアルの改訂—
(講師 全産連 事業部 部長 香川 智紀氏)
講義「埋立処分委託契約書作成の概要」
(講師 全産連 事業部 部長 香川 智紀氏)
講義「最終処分場維持管理マニュアルの概要」
(講師 住吉工業株式会社 環境産業部 次長 中川 和也氏)
- ③ 講演「最終処分場の構造と管理と課題」
(講師 福岡大学 環境保全センター教授 センター長 柳瀬 龍二氏)
- ④ 質疑応答



中川 和也氏



柳瀬 龍二氏



四国八十八箇所遍路道清掃活動事業概要報告

【64番前神寺から65番三角寺】

- 1 日 時：令和元年12月6日(金) 13時30～15時
- 2 場 所：新居浜市阿島から荷内の県道壬生川野田線沿線
- 3 参加者：愛媛県、新居浜市、協会（西条地区・今治地区・松山地区・八幡浜地区・青年部） 45名
- 4 内 容：東予地方局不法投棄防止対策推進協議会と協会の共催で実施
 - 64番前神寺から65番三角寺への遍路道周辺の清掃活動
 - ゴミ回収量 タイヤ等粗大ごみ、ペットボトル等可燃物、空き缶、空き瓶等不燃物 トラック2台（180kg）





協会ニュース

松山市制施行130周年市政功労者表彰の受賞

令和元年12月15日松山市総合コミュニティセンターにおいて松山市制施行・市議会開設130周年記念式典が開催され、一般社団法人えひめ産業資源循環協会がまちづくりに貢献した市政功労者として表彰されました。



松山市制130年 発展誓う

記念式典に市民ら2000人



約2千人が出席して開かれた松山市制施行・市議会開設130周年記念式典—15日午前、松山市湊町7丁目

松山市制施行・市議会開設130周年の記念式典が15日、同市湊町7丁目の市総合コミュニティセンターであった。市民ら約2千人が出席し、明治から令和に至る市の軌跡を振り返るとともに、さらなる発展を誓った。

式典は松山少年少女合唱団による市歌「松山市の歌」や水軍太鼓の演奏で華やかに幕開け。式辞に立った野志克仁市長は、1889年12月15日、全国39番目の市制施行だった歴史に触れ

「当時の人口3万2916人から、51万人を有する都市に成長した。市民が夢や希望を描き、未来に向けて挑戦し続けるまちづくりを進めていく」と述べた。

地域活動のほか福祉や産業など各分野でまちづくりに貢献した市政功労者と議会功労者計1686の個人・団体を表彰。市政功労受賞者を代表して2016年リオデジャネイロ・パラリンピック柔道日本代表の広瀬悠さん(40)と松山市出身の銅メダリストの順子さん(29)と山口市出身の夫妻が謝辞を述べ、「社会のさまざまな問題を乗り越え、みんなが住みたいと思う街になってほしい」と今後のまちづくりに期待した。

(中野貴衣)